

ハブハブハー

心のルール

1年 T・Kさん

「どうしてぼくにはドクがあるの？ドクなんてだいきらいだ」自分のことがきらいになってしまったブハーの泣くすがたを見て、とても切ないきもちになりました。

「ハブハブハー」の本は、ドクをもつ一人ぼっちのブハーとしまのなかまたちのおたがいのことを思うきもちがあふれたおはなしです。

もし自分がブハーだったら、ともだちに「いっしょにあそぼう」と声をかけられるだろうか。みんなが自分のドクをこわがっているの、声をかけるときはふあんなきもちでいっぱいになります。ことわられると、かなしくなつてなみだが止まらなくなると思います。だからさいしょから声をかけることをやめてしまいかもしれません。声をかけるゆう氣がまだ自分には足りないのです。

もし自分がブハーから「いっしょにあそぼう」と声をかけられたらどうするだろう。ドクはともこわいけれど、ブハーは大きなともだちなので、へんじにとてもこまってしまういます。まずは、ひっしにみんなが、ぶじにあそべるほうほうがないか、かんがえてみるけれどあたまの中は、ずっとドクのことについていでもてもこわい。ことわるときに、きずつけないことばをえらぶのはとてもむずかしいし、ブハーのかなしいかおや、なみだを見るのはもつとつらいです。ルリカケスクんのようにはっきりと自分のきもちをことばにしてつたえると、自分だけがきらわれるかもしれない。なかまはずれになるかもしれないと思うと、そつとそばからにげだしてしまいたくなります。きずつくことがこわくて、氣もちを正じきにつたえるゆうきがまだ自分には足りないのです。

ぼくは、この本をよんで「かちかん」という、ことばをおそわりました。「かちかん」とは、ぼくたちの心の中にある「これが大切だ」とおもうルールのようなものです。

人のかずだけ「かちかん」はあって、みんなちがうからこそとても大切なんだとおもいます。自分の「ルール」だけにこだわらず、おもいきっているいろな「かちかん」の人とであってみたら、いままでとはちがうものにきょうみがわいて、ちがうかんがえかたができるようになったり、自分のせかいがひろがるとおもいます。自分で自分のことをよくしり、あいてのこともよくしる。どんなときもやさしさをわすれずに、おともだちをだいじにして、きもちをうけいれる。ぼくは、ブハーみたいに、ゆたかでつよい心をもった人になりたいとおもいました。